

子ども用



伝道地便り

2025年第2期 南アジア太平洋支部

- | | |
|------------------|--------|
| 第1話「最高の誕生日プレゼント」 | タイ |
| 第2話「大切なカップケーキ」 | タイ |
| 第3話「距離、加速度、速度」 | タイ |
| 第4話「新しい心」 | フィリピン |
| 第5話「ポリ、ポリ、ポリ」 | フィリピン |
| 第6話「海での奇跡」 | インドネシア |

ADVENTIST
MISSION

セブンスデー・アドベンチスト教団 伝道局 安息日学校部

伝道地便りの用い方の ヒント

伝道地便りに収められているのは、現地からの一人ひとりの生きた経験です。安息日学校でこれを用いるときには、生き生きとご紹介していただきたいのです。そのためのヒントを、いくつか列挙いたします。

- 1) 前もって何度か目を通し、自信を持って読む。
- 2) 棒読みは避け、証されている大事な部分を明確にしておく。
- 3) 伝える時間はできるだけ短く。長くても5～7分。
- 4) だれが、いつ、どこで、何を、なぜ、どうしたかが分かるようにする。
- 5) できたらカードに文字や絵を書くなどの視聴覚的工夫を。
- 6) 時には、スキット(寸劇)風にしてくださっても良いですね。

伝道地便りは、私たちが自分の証をするときの練習になります。主の愛の証のために、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして」紹介しましょう。

1. 最高の誕生日プレゼント

タイ



エイプリル

エイプリルはタブレットをなくしてしまいました。

タブレットは、8歳の彼女が宿題をするためにとても必要なものでした。毎晩、宿題と一緒に見てくれる先生から3時間のオンラインレッスンを受けているからです。エイプリルは先生に聖書の宿題、社会科の宿題、文法、リーディング、そして理科の宿題も見てもらっていました。中でも理科が一番苦手だったので最も助けを必要とする科目でした。

しかし、その夜、タブレットはどこにも見当たりませんでした。おまけに翌日は彼女の9歳の誕生日です。タブレットがなくなったままで、どうしてお祝いできるのでしょうか？

普段エイプリルは午後、充電のためにタブレットを自分のベッドルームに置いていました。しかし今回はそうせずに、どこに置いたか思い出せないのです。

エイプリルは両親の部屋を探しましたがありま

せんでした。リビングとキッチンを探しても見つかりません。

午後6時に先生とオンラインレッスンを始める時間が迫ってきました。どうすればいいでしょう？ エイプリルは母親に助けを求めました。

先生とのレッスンを始める時間だったので、お母さんは自分の携帯電話を貸してくれました。そして、「タブレットを見つけるまでテレビを見てはいけません」と、お母さんは言いました。

エイプリルはテレビが見られないことよりも、タブレットがないためにお母さんのスマートフォンを借りなければならなかったことを気にしていました。

その夜、3時間のオンラインレッスンを終えて、眠りにつく前にエイプリルは天の神様に祈りました。

「神様、タブレットを見つけられるように助けてください。勉強のために必要なのです」

その夜、彼女は夢を見ました。夢の中でエイプリルはタブレットがリビングの長椅子の下にあるのを見たのです。

翌朝、エイプリルは朝早く目を覚ますと、すぐタブレットが見当たらないことを考えました。それから、今日が自分の誕生日であることを思い出しました。タブレットをなくしたままで、どうしてお祝いする気持ちになれるのでしょうか？

エイプリルは水を飲むために台所に行きました。水を飲みながらキッチンを見まわしましたがタブレットの影も形もありません。彼女は水筒に水を入れ、学校に持っていく食べ物を用意しました。その間もキッチンをずっと見まわしていましたが、見つかりませんでした。

その時、突然エイプリルは昨夜の夢を思い出したのです。夢の中で、タブレットはリビングの長椅子の下にありました。

エイプリルはリビングに走っていき、長椅子の下をのぞき込みました。すると、見つけました！ あったのです！ なくなっていたタブレットが見つかったのです！

エイプリルはとても幸せでした。彼女の顔は窓の外の朝日のようなまぶしい笑顔になりました。神様は彼女の祈りに応えられたのです。これは今までもらった中で一番すばらしい誕生日プレゼントでした！

彼女はすぐに神様へタブレットを見つけさせてくださった感謝の祈りをささげました。

「イエス様、あなたは真の生きておられる神様です。私のタブレットを見つけるためにお助けくださり、ありがとうございます。どうか、もの忘れをしない良い子にしてください」

エイプリルが初めて天の神様について知ったのはタイのコラート・アドベンチスト・インターナショナルスクールにおいてでした。この学校で学ぶ子どもたちの多くは神様を全く知らない家庭から来ており、ここでりっぱなキリスト教教育を受けます。4年生のエイプリルは聖書のクラスで先生から祈る方法を教わったのです。13回献金の一部は数年前、エイプリルの学校を建てるために用いられました。今期の13回献金はアジアに住むもっと多くの子どもたちが、祈りを聞いてくださる天の神様について学ぶことができるように用いられます。皆様の献金を感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- タイのコラート（ナコーンラーチャーシーマーとも呼ばれる）を地図で示しましょう。
- エイプリルのショートユーチューブビデオをご覧ください。bit.ly/April-SSD
- 2018年4期の13回献金の一部はコラート・アドベンチスト・インターナショナルスクール（以前のアドベンチスト・インターナショナルミッションスクール）が幼稚園から高校3年生までの学校（K-12スクール）となり、新しいキャンパスのより大きな校舎に移転するために用いられました。
- フェイスブックからこのお話の写真をダウンロードしましょう。bit.ly/fb-mq
- 南アジア太平洋支部からの情報「Fast Facts and Mission Posts」を分かち合いましょう。bit.ly/ssd-2025
- この話はセブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」伝道戦略の以下の項目の具体例です。
「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」（「霊的成長の目標」No.5）
「子ども、青年の入信、定着、再定着、礼拝出席を増加させる」（「霊的成長の目標」No.6）
「青年が神様を第一とし、聖書的な世界観を体現できるように支援する」（「霊的成長の目標」No.7）
詳細はウェブサイトIWillGo.orgをご覧ください。

宣教メモ

- タイのアドベンチスト・レスキュード・チルドレンズ・ケア・イン チェンマイでは孤児、捨てられた子ども、虐待や貧困で苦しむ子どもを引き取り、安全で幸せな家を提供し、大学や職業訓練を通してよい教育を施します。この組織はタイとミャンマーの国境にある難民キャンプの子どもたちにも助けの手を差し伸べています。

2. 大切なカップケーキ

タイ



ペイペイ

ペイペイは妹のシンシンが大好きです。彼は、自分のうれしいことは何でもシンシンと分かち合いたいと思っています。自分がニコニコしている時は彼女にもニコニコしてほしいと思っています。自分が笑っている時はシンシンにも笑っていてほしいと思っています。また、特別なごほうびをもらった時は彼女にもごほうびをあげたいと思っています。そのため、友だちの誕生日祝いでカップケーキをもらった時、ペイペイも妹にカップケーキをあげたいと思いました。

ある日、誕生日を迎えたクラスメートがペイペイの学校においしそうなカップケーキを山のように入れてきて、それを教室の机の上にのせました。上に甘いクリームがかかっているととてもおいしそうなカップケーキです。子どもたちは机のところにきて、それを1個ずつもらいました。そしてみんな、熱心にまわりの紙をはがして食べ始めました。ペイペイも1つケーキを取りました。彼もそれを食べたかったのですが、その時、妹のことを思い出しました。そして妹にもこれを食べてほし

いと思いました。振り返って机を見ると、まだケーキがいくつか余っています。家にいるシンシンのために1つほしいと思い、ペイペイは先生の所に行こうとたずねました、

「あの残っているカップケーキを1つもらってもいいですか？」

先生はペイペイを見つめました。先生はペイペイが妹にあげるために2つ目のカップケーキをほしがっているということがわかりませんでした。先生はペイペイがもう1個食べたいのだと思いました。しかし、ペイペイにもう1つあげれば、クラスの他の子どもたちも2つ目のケーキをほしがるでしょう。全員が2つもらえるほどのケーキはなかったので、先生は頭を横にふりました。

「だめよ。クラスみんなが1個ずつ食べるのに十分な数しかないから」

ペイペイは悲しそうに下を向きました。それから、クラスみんなの方を見ると、みんなまだ美味しそうに食べていました。ペイペイは自分のケーキを見つめました。そして自分も食べたいと思いました。しかし、ペイペイは、妹が大好きでした。そこで、彼女のためにケーキを食べずにとっておくことにしました。ペイペイは自分の席に戻ると、ケーキを家に持ち帰るために、大事に机の中に入れました。

先生はペイペイの悲しそうな表情を見ました。彼が自分の机に行き、ケーキを食べずに大切にとっておくのを見ていました。先生はペイペイのところに行き、たずねました、

「どうしてケーキを食べないの？」

ペイペイは妹のためにとっておくのだと説明しました。ペイペイはシンシンにもお祝いのケーキを味わってほしかったのです。

先生はペイペイが2つ目のケーキをほしがった理由を理解しました。彼が2つ食べたいからでは

なく、妹にも食べさせてあげたかったからなのです。2つ目をもらえなかったので、自分の分を妹にあげることにしたのです。

先生はペイペイの犠牲的精神を見て感動しました。彼女はカップケーキの載せてある机に行くと、「ペイペイ。妹にあげるカップケーキをもう1つ取っていいわ」と言いました。

ペイペイの顔は太陽のようにパッと明るくなりました。テーブルから2つ目のケーキをもらう彼の顔はキラキラと微笑んでいました。カップケーキを食べることができるし、妹にも1つあげることができるのです！

それ以後、学校でペイペイの友だちの誕生日祝いがある時はいつでも、先生はペイペイに妹にあげるためのお菓子を1個余分にくださいます。

ペイペイはタイのコラート・アドベンチスト・インターナショナルスクールの生徒であり、宣教師家庭の子どもです。数年前の13回献金の一部はこの学校建設のために用いられました。ペイペイが妹に自分のカップケーキを喜んで与えることで、犠牲的精神を示したように、私たちも13回献金のために何かをささげることで同じ精神をあらわすことができます。何かできることはないか、大人にアイデアを聞いてみましょう（「お話のヒント」参照）。

豆知識

- シャム猫はタイの原産であり、かつてはシャム王国でロイヤルペットとして崇敬されていました。



〈お話のヒント〉

- タイのコラート（ナコーンラーチャシーマーとも呼ばれる）を地図で示しましょう。
- 13回献金のために何かを犠牲にできないか、子どもたちと考えてみましょう。キャンディーを買う代わりにおこづかいの一部をとりおくこと、あるいは、親の承諾の下、食事のデザートを抜いて、その代金を献金としてささげることもできるでしょう。
- ペイペイの父親、ヨウヨウについての2018年の伝道地便りを読んでみましょう（英文のみ）。bit.ly/yoyo-ssd
- フェイスブックからこの話の写真をダウンロードしましょう。bit.ly/fb-mq
- 南アジア太平洋支部からの情報「Fast Facts and Mission Posts」を分かち合いましょう。bit.ly/ssd-2025
- ペイペイの犠牲的精神はセブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」伝道戦略における以下の項目の具体例です。「牧師のみならず、全世代の教会員1人ひとりが世界伝道という考えを持ち、その使命のために献身する生き方を、キリストの証人となり弟子を作るという喜びにより実践すること」（「伝道の目標」No.1）
ペイペイの家族のタイにおける宣教師家族としての働きは以下の項目の具体例です。「10/40ウィンドウの中にある伝道が及んでいない、あるいは伝道が十分ではない地域に住む人々とキリスト教以外の宗教に対するアドベンチストの働きを強化し、多様化させる」（「伝道の目標」No.2）。
詳細はウェブサイト:IWillGo.orgをご覧ください。

3. 距離、加速度、速度

タイ



ナオミ

タイの学校に通う13歳のナオミは今度の理科の試験に合格できないと思っていました。家でタブレットに書き込んだノートを読み返しましたが、意味がまったくわかりません。「距離」「加速度」「速度」といった単語が目にとびこんできました。ナオミは心の中で不安が膨らんでいくのを感じました。彼女はテストでどうしても良い成績をとらなければなりません。彼女の将来がかかっているのです。彼女は科学者を目指していました。しかし、理科の試験に合格しなかったら、どうして科学者になれるのでしょうか？

ナオミが時計を見ると、もう夜遅くなっていました。寝なくてははいけません。しかし、試験は翌日でした。彼女はもう一度タブレットに目をやりました。再び、「距離」「加速度」「速度」といった混乱する言葉しか目に入ってきませんでした。

「あ~~~~！」彼女は絶望のうちに叫びました。彼女は必死でした。どうすればいいのでしょうか？

か？ 両親は眠っていて助けてもらうことはできません。友だちにも助けてもらうのも無理でした。なぜなら、友人たちも距離、加速度、速度を理解していなかったからです。

その時、一つの考えが頭にひらめきました。「祈ろう」と彼女は思ったのです。

ナオミは、朝と夜に祈ることを学校で教わりました。今は夜なので、理科のテストについて祈ってはどうかだろうか、と思ったのです。ナオミは目を閉じて、手を組みました。

「神様、この試験に合格できるように、どうか助けてください」と、彼女は祈りました。

それから彼女は神様に、試験に合格したいのは科学者になりたいからだと説明しました。神様に話し終わると、気持ちが落ち着きました。まだ少し不安はありましたが、神様に悩みを話せてよかったと思いました。もう数分間勉強したのち、彼女はベッドに行きました。祈った後、彼女は安らかな気持ちだったので、すぐに眠りつくことができました。

次の朝、ナオミの心はまだ安らかでしたが、不安な気持ちも少しありました。お父さんは、すべてうまくいくよと励ましてくれました。

「大丈夫だよ、それはただの成績にすぎないし、実社会では成績なんて関係ないよ」とお父さんは言いました。

しかし、それでもナオミはテストでよい成績を取りたいと思いました。

朝食後、最後にもう一度ノートをさっと見直して、学校に行きました。

テストの時間になると、何かがちがうように思えました。ナオミは距離、加速度、速度などの言葉の意味を理解できたのです。テストは簡単ではありませんでしたが、試験の間、彼女は落ち着いて取り組むことができました。

試験の結果が出たとき、彼女は優秀な成績で合格したことを知りました。彼女は驚き、とても喜びました。

その夜、彼女は眠る前にベッドで感謝して、「良い成績をとれるように助けてくださってありがとうございます」と、祈りました。

今、ナオミは喜んで何でも神様に祈ります。祈ることは心配することよりも、ずっと楽しいことだとわかったからです。

「何事も心配しないで、なんでも祈ってください」と、彼女は言っています。

ナオミは正しいのです。なぜなら聖書にこう書かれているからです。

「何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈と願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。そうすれば、人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安が、あなたがたの心と思いとを、キリスト・イエスにあって守るであろう」(ピリピ4:6、7 口語訳)

ナオミはタイのコラート・アドベンチスト・インターナショナルスクールで学んでいます。そこには神様についてまったく知らない家庭から来ている子どもたちが大勢います。数年前の13回献金の一部はこの学校の建設のために用いられました。今期の13回献金はアジアのほかの子どもたちも神様を知ることができるようになるために用いられます。皆様の献金を感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- タイのコラート（ナコーンラーチャシーマーとも呼ばれる）を地図で示しましょう。
- ナオミのショートユーチューブビデオをご覧ください。bit.ly/Naomi-SSD
- 2018年4期の13回献金の一部はコラート・アドベンチスト・インターナショナルスクール（以前のアドベンチスト・インターナショナルミッションスクール）がK-12スクールとなり、新しいキャンパスのより大きな校舎に移転するために用いられました。
- この話の写真をフェイスブックからダウンロードしましょう。bit.ly/fb-mq
- 南アジア太平洋支部からの情報「Fast Facts and Mission Posts」を分かち合いましょう。bit.ly/ssd-2025
- このお話はセブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」伝道戦略の以下の項目の具体例です。
「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」(「霊的成長の目標」No.5)
「子ども、青年の入信、定着、再定着、礼拝出席を増加させる」(「霊的成長の目標」No.6)
「青年が神様を第一とし、聖書的な世界観を体現できるように支援する」(「霊的成長の目標」No.7)
詳細はウェブサイト:IWillGo.orgをご覧ください。

豆知識

- 人気のタイ料理には、パッタイ（多めの油で炒めた卵の入った米麺の焼きそば）、トムカーガイ（チキンとレモングラスの入ったスパイシーなココナッツスープ）、カオニャオ・マムアン（ココナッツミルクで炊いたもち米に新鮮なマンゴーを添えたもの）などがあります。



4. 新しい心

フィリピン



ハンナ

ハンナは、彼女の双子の弟、ザキとジェリーが大好きでした。しかし、とってもイライラさせられるときがありました。姉としてハンナは、彼らが自制心を持ち、お行儀よくする必要があると感じていました。

そのようなわけで彼女は、お昼を食べるとき、弟たちがお皿いっぱい食べ物をとっているのを見て注意しました、

「お父さんとお母さんの分も残しておくのよ」と、ハンナは言いました。

すると、ザキが食べ物を何も戻さずに、「大丈夫だよ」と言いました。

「ママとパパはもう食べたよ」と、ジェリーもあいづちを打ちました。

しかし、ハンナには彼らが食べ物をたくさん取りすぎているように見えたので、お皿のものをいくらか戻してほしいと思いました。

「いいえ、まだ食べていないわよ」と、ハンナは言い張りました。

「お父さんたちの分を残しておきなさい」と、彼女は声を上げて言いました。

それに対して、「本当に大丈夫だよ」と、ザキ

も声を上げて断言しました。

激しくなる言い合いの声を聞いて、お父さんとお母さんが仲介に入りました。

「大丈夫だよ」と、お父さん。

「あの子たちに食べさせておやり」と、お母さん。

しかし、ハンナをイライラさせたのはこれだけではありませんでした。双子の弟たちはハンナのベッドルームに入ってきて、彼女のおもちゃで遊ぶのも好きでした。

ある日、彼らが彼女のテディベアで戦いごっこを始めたとき、ハンナはドキッとしました。遊んでいる時にうっかり壊されてしまうかもしれないと心配したのです。彼女はテディベアをつかみました。そして、「自分たちのもので遊びなさい」と、強い口調でささやきました。

彼女がささやいたのは、お父さんとお母さんの邪魔をしないためでした。家族はフィリピンにある教育機関、アドベンチスト・インターナショナル・インスティテュート・オブ・アドバンスド・スタディーズ (AIAS、以下アイアス) のキャンパス内のアパートで暮らしていました。お父さんは別の部屋で宣教師になるための勉強をしており、お母さんは仕事をしていたのです。

双子はハンナがテディベアを取り上げてもおかまいなしでした。彼らは彼女の部屋にある他のテディベアを見つけて戦いごっこを始めました。

「やめて!」とハンナはささやきました、「自分のおもちゃで遊びなさい」

こんなことが次から次にあって、とってもイライラするのです。ハンナはどうしていいかわかりませんでした。

そんなある日、ハンナと家族はアイアスでの祈禱週の集会に参加しました。ハンナは講師の先生のお話に注意深く耳を傾けました。イエス様の大きな愛について聞き、ハンナの心は感動しました。講師が、どなたかイエス様に心をささげてバプテ

スマを受けたい人はいませんかと訴えた時、ハンナは両親の顔を見上げました。

「お父さんお母さん、私、行ってもいい？」とハンナはささやきました。

お父さんとお母さんはハンナがイエス様をととても愛していて、聖霊様が彼女の心に語りかけていることがわかりました。彼らはハンナに、行ってもいいよ、とわずきました。ハンナは前に出ていき、ザキとジェリー、他の子どもたちもそれに続きました。

教会の牧師は子どもたちのために特別な祈りをささげ、一緒に聖書研究を始めようと呼びかけました。そして、あるかがやく幸せな安息日に、ハンナと双子の兄弟はバプテスマを受けて、イエス様に心をおささげしました。

バプテスマを受けてからハンナに何かが起こりました。ハンナは今までより 30 分早く起きて個人的な朝礼拝をするようになりました。聖書を読んでいると神様が本当に一緒にいてくださるのを感じました。神様との時間が好きで、彼女は祈りました。

「天のお父様、この日を感謝します。聖書の言葉を理解できるように助けてください。今日あなたの語られることを理解できますように。両親や弟たちを祝福してください」

ハンナが祈っていくうちに、家の中のことが変わり始めました。これまでイライラさせられていた事柄で心乱されることがもはやなくなりました。イライラがなくなり、弟たちにいつも優しく話せるようになりました。

今では、ハンナはいつでも幸せで、神様が自分の心を神様の心のように作りかえてくださっていると確信しています。

「神様は私の心をつくりかえてくださっています」と、彼女は言っています。

今期の皆様の 13 回献金はフィリピンを含む南アジア太平洋支部の子どもたちが心を作り変えてくださる神様を知ることができるようになるために用いられます。6 月 28 日の皆様からの惜しみない献金を感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- 地図でフィリピンを示しましょう。
- ハンナのショートユーチューブビデオをご覧ください。bit.ly/Hannah-SSD
- 神様がハンナの心を作り変えておられることを子どもたちに説明しましょう。エペソ 4 : 31、32には次のように書かれています、「すべての無慈悲、憤り、怒り、騒ぎ、そしり、また、いっさいの悪意を捨て去りなさい。互に情深く、あわれみ深い者となり、神がキリストにあってあなたがたをゆるして下さったように、あなたがたも互にゆるし合いなさい」(口語訳)。子どもたちに、神様に心を作り変えてもらいたいかどうかたずねてみましょう。
- ハンナのように毎朝、祈りとデイポーションをするよう子どもたちを励ましましょう。朝のデイポーションと祈りは新しい心を頂くための秘訣です。
- この話の写真をフェースブックからダウンロードしましょう。bit.ly/fb-mq
- 南アジア太平洋支部からの情報「Fast Facts and Mission Posts」を分かち合いましょう。bit.ly/ssd-2025
- この話はセブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」伝道戦略の以下の項目の具体例です。「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」(「靈的成長の目標」No.5)「子ども、青年の入信、定着、再定着、礼拝出席を増加させる」(「靈的成長の目標」No.6)「青年が神様を第一とし、聖書的な世界観を体現できるように支援する」(「靈的成長の目標」No.7)詳細はウェブサイト:IWillGo.orgをご覧ください。

宣教メモ

- アドベンチスト・インターナショナル・インスティテュート・オブ・アドバンスド・スタディーズ (AIAS、アイアス) はマニラの郊外に位置しており、公衆衛生の修士課程、および教育、ビジネス、神学の修士と博士課程を提供する教育機関です。

5. ポリ、ポリ、ポリ

フィリピン



小さな男の子

小さな男の子はとても悲しい気持ちでした。手も足もかゆくて、どうしたらかゆくなくなるのか、わからなかったからです。

小さな男の子と家族はどの病院からも遠く離れた場所に住んでいました。まわりにはお医者さんや看護師さんは1人もいません。家族はフィリピンの山奥の村に住んでいたのです。村に住む他の子どもたちも手足にかゆみがありました。どうすれば治るのか誰にもわかりませんでした。

ある日、2人の若い女性が村にやってきました。小さな男の子は、その人たちが自分たちは遠いところから来た宣教師だと言っているのを聞きました。そして、1年間、彼女たちがこの村に住むということも聞きました。その2人のうちの1人が、小さな男の子の方をまっすぐに見つめ、神様のお話を聞きませんか、と誘いました。

「村の横を流れている川のところにいらっしやい、お友だちも誘ってね」と、彼女は明るい笑顔で言いました。

ほどなくして、小さな男の子とたくさんの子もたちは2人の宣教師たちと一緒に、岩の多い川岸に座っていました。1人の宣教師が、きれいな

絵が入っている1冊の本を開いて神様についてのお話を読み始めると小さな男の子は興味を持って耳を傾けました。ところがその時、手がかゆくなり始めたのです。彼はかゆいところをひっかきました。今度は足がかゆくなり始めたので、そこもひっかきました。すると、もう片方の手と足がかゆくなり始めたので、そこもひっかきました。他の子どもたちも同じようにかゆくなり、みんな体をかいて、かいて、ひっかきました。ひっかいているとお話に集中することがむずかしくなっていました。

宣教師たちは子どもたちがかゆみに悩まされていることに気づき、彼らの手足を注意深く観察しました。

「いいアイデアがあるわ」と、1人の宣教師が言いました。「私が小さい頃住んでいた村で、似たような発疹を見たことがあるの。その時、グアバの葉っぱをお湯で煮て、手と足をその液に浸したの。それをここでもやってみましょう」

2人の宣教師たちは、この村にグアバの木があるかどうか子どもたちに尋ねました。小さな男の子は、張り切って1本のグアバの木を指さしました。宣教師たちはその葉っぱを集め、子どもたちには家からたらいやバケツやボウルを持ってくるようにと言いました。小さな男の子もそれを聞いて大急ぎで走って行きました。彼が戻ってくると、宣教師たちは大きな鍋でグアバの葉っぱを煮ていました。それから、宣教師たちは鍋を火から下ろし、鍋のお湯が冷めるのを待ちました。待っている間、宣教師たちは子どもたちに神様についての楽しい歌をいくつも教えてくれました。それから宣教師たちは冷ました鍋の水を子どもたちのたらいやバケツ、ボウルに注ぎ入れました。「さあ、神様に助けてくださるよう祈りましょう」と、1人の宣教師が言いました。もう1人は、祈

るために目を閉じ、手を組むことを子どもたちに教えました。彼女は祈りました、「神様、この子どもたちをどうぞ癒してください。イエス様のみ名を通してお祈りします。アーメン」

小さな男の子とそのほかの子どもたちは両手をそれぞれのたらいやバケツに入れ、20分間そのまま待ちました。それから新しくグアバの水を入れ替えて、今度は足を浸してもう20分間待ちました。その間、賛美歌を楽しく歌ってあっという間に時間が過ぎていきました。

それ以後、毎日、宣教師たちは葉っぱを煮て、祈り、子どもたちの手と足を水に浸しました。彼らはお母さんたち全員にこのやり方を教えました。そして2週間後、子どもたちの手と足からその白い発疹は消えてしまいました。みんな、とても喜びました！

それから、宣教師たちはもう一度神様についてお話するために子どもたちを川岸に招きました。小さな男の子はそこに行きました。もうかゆい手足に悩まされなくなったので、集中して聞くことができます。彼は、宣教師たちの祈りに答えて自分を癒してくださいました。神様についてもっと知りたいと思いました。

小さな男の子を助けた2人の若い女性たちは1986年の13回献金の支援で建てられたセンターで宣教師になる訓練を受けました。アジアのもっと多くの子どもたちにイエス様を伝えるべく、用いられる6月28日の13回献金をどうぞよろしくお願いいたします。

豆知識

- フィリピンの国鳥はフィリピンワシ、国花はサンバクジャスミン、国の木はナラ、またはフィリピンマホガニーです。サルを食べる絶滅危惧種のフィリピンワシは、森林破壊の中でかろうじて生き残っています。



〈お話のヒント〉

- フィリピンを地図で示しましょう。それから小さな男の子の住むフィリピンの最も長い山脈、シエラマドレも示しましょう。
- この話に出てくる「小さな男の子」はドゥマガット部族の子どもです。この部族の伝統的信仰はアニミズム（自然界のあらゆるものに靈魂が宿っているという信仰）であり、この人たちのところにはまだ神様のことが伝えられていません。この話の中の宣教師たちは、千人宣教師運動のフィリピン人ボランティアです。過去、13回献金の一部が千人宣教師運動のために送られ、フィリピンのシランにあるそのトレーニングセンターのために用いられました。
- この話に出てくる宣教師の1人、バンバンのショートユーチューブビデオをご覧ください。bit.ly/Bam-Bam-SSD
- この話の写真をフェイスブックからダウンロードしましょう。bit.ly/fb-mq
- 南アジア太平洋支部からの情報「Fast Facts and Mission Posts」を分かち合いましょう。bit.ly/ssd-2025
- この話はセブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」伝道戦略の以下の項目の具体例です。
「伝道が及んでいない、あるいは伝道が十分ではない地域に住む人々……に対するアドベンチストの働きを強化し、多様化させる」（「伝道の目標」No.2）
「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」（「靈的成長の目標」No.5）
「子ども、青年の入信、定着、再定着、礼拝出席を増加させる」（「靈的成長の目標」No.6）
「青年が神様を第一とし、聖書的な世界観を体現できるように支援する」（「靈的成長の目標」No.7）
詳細はウェブサイト：[IWillGo.org](https://www.IWillGo.org)をご覧ください。

6. 海での奇跡

インドネシア



ジュクン

これは、ジュクンという種類の船で起こった奇跡のお話です。

ジュクンというのは、伝統的なインドネシアのボートです。見かけはふつうのカヌーに似ていて、長くて、細くて、多くの場合、木でつくられています。ボートの両側には、アウトリガーと呼ばれる長い浮きがついています。アウトリガーは水の上でボートのバランスを保ち、ひっくり返らないように助ける役割をしています。ジュクンの後ろには、ボートを前に進めるための力強い船外エンジンがついています。

この話に出てくるジュクンは、見た目はまったく普通のジュクンでした。特別な色ではありませんし、長さもほかのジュクンと同じです。特別な船外エンジンがついていたわけでもありませんでした。

しかし、そのジュクンには特別なお客が乗っていました。

エドゥアード牧師は、自分の住んでいる島にジュクンが着くのを見ました。政府の医療従事者たちがその船から降りてきて、彼の村にやってきました。その人たちが再びジュクンに乗って立ち

去ろうとしているのを見て、牧師は彼らにこれからどこに行こうとしているのか尋ねました。すると、ちょうど自分が行きたいと思っていた島に彼らが行こうとしていることがわかりました。その島には、自分たちの教会堂を持っていない、セブンスデー・アドベンチストの3家族が住んでいました。彼らはアドベンチストの教会のある島に行くためのボートも持っていませんでした。3家族はいつもどこかの家に集まって、一緒に安息日のお礼拝をしていました。しかし、今度の安息日は13回安息日で、洗足聖餐式を行い、イエス様の死を思い起こすために、お互いの足を洗い合い、ぶどうジュースを飲み、種入れぬパンをいただく日なのです。彼らはエドゥアード牧師が来て、一緒に礼拝を持ってくれることを願っていました。

エドゥアード牧師は自分のボートを持っていませんでしたので、医療従事者たちに、その島まで一緒にジュクンに乗せて行ってもらえないかと頼みました。

その願いはかなえられ、一行はジュクンに乗って金曜日の午後に出発しました。

ぶるるるるるるるるるるるるるるる！ ジュクンは水面を勢いよく加速していきました。エドゥアード牧師は顔に心地よい風を感じながら座っていました。村人たちとお礼拝が楽しみでした。

ところがその時、嵐がおそいかかりました。どしゃぶりの雨に、すさまじい風です。

ボートは荒れ狂う水の中を走り続けました。

ぶるるるるるるるるるるるるるるる！

突然、ぶるるるるるるるるるるるるるるる！の音が止まりました。

エンジンはピタッと静かになりました。エドゥアード牧師と、医療従事者たちと、船長はお互い顔を見合わせました。耳に聞こえるのは雨の叩きつける音と風のほえる音だけでした。

がわかりました。私たちが安全に家に帰してくださったのはイエス様です」

その安息日は、エドゥアード牧師にとってとびきり特別な日になりました。彼はその島で聖餐式を祝うことができただけでなく、自分自身の体験として特別な伝道地便りを届けることができたのです。

今期の13回献金の一部はインドネシアの人々に祈りを聞かれる神様を伝えるために用いられます。あなたの13回献金はインドネシアのナビレにパプア・アドベンチスト・セオロジー・カレッジを開校するために送られます。同献金はミャンマーのプレスクール、同じくミャンマーのライフ・ホープ伝道センター、そしてブルネイのヘルスクリニックにも送られます。本日のあなたの惜しみない献金を心から感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- ・インドネシアを地図で示しましょう。
- ・エドゥアード牧師のショートユーチューブビデオをご覧ください。bit.ly/Eduard-SSD
- ・この話の写真をフェイスブックからダウンロードしましょう。bit.ly/fb-mq
- ・南アジア太平洋支部からの情報「Fast Facts and Mission Posts」を分かち合いましょう：bit.ly/ssd-2025
- ・この話はセブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」伝道戦略の以下の項目の具体例です。

「伝道が及んでいない、あるいは伝道が十分ではない地域に住む人々……に対するアドベンチストの働きを強化し、多様化させる」

（「伝道の目標」No.2）

「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」（「霊的成長の目標」No.5）

詳細はウェブサイト：IWillGo.orgをご覧ください。

〈13回安息日の前に〉

- ・私たちの伝道献金は世界中に神様のみ言葉を伝える贈り物であること、そして13回献金の1/4は南アジア太平洋支部における4つのプロジェクトのために用いられることを皆さんと確認してください。プロジェクトは『聖書研究ガイド』の裏表紙に記載されています。
- ・ナレーターは話を暗記する必要はありませんが、資料を見なくても話せるくらいにしておいてください。また、ナレーターが話をする代わりに子どもたちや大人たちで話を演じてみるのもよいでしょう。
- ・話の前あるいは後で、地図を用いて13回献金が送られる南アジア太平洋支部のブルネイ、ミャンマーそしてインドネシアの位置を示しましょう。

〈来期の13回安息日プロジェクト〉

来期は南アフリカインド洋支部が伝道地となり、13回安息日プロジェクトとして以下のものが含まれることとなります。

- ・ザンビア北部に新しい中等学校
- ・ザンビア、カラポのユカ・アドベンチスト病院の職員住宅
- ・ザンビア、バングウェウル湖の宣教ポート
- ・ザンビア、チボンボのチタンダ・ルーマンバ・アドベンチスト病院、厨房と洗濯室
- ・南アフリカ、ウムランガに健康増進感化センター
- ・南アフリカインド洋支部全体、子ども向けプロジェクト：御霊の実に基づいたアニメのお話、子ども用聖書の配布